第９学年３組 美術科学習指導案

日　　時　令和４年１２月２日（金）５校時
学　校　名　島根大学教育学部附属義務教育学校
指　導　者　江角　哲弥

１　題材名

すべての人が使いやすい新製品を開発！
～ユニバーサルデザインの視点をもとに形と色と質感を工夫しよう～
Ａ表現(1)イ(ｳ)　(2)ア(ｱ)(ｲ)　Ｂ鑑賞（1）ア(ｲ)イ(ｱ)　〔共通事項〕(1)ア，イ

２　題材の目標

（１）・形や色彩が感情にもたらす効果や，材料の性質や質感が人間の感覚や感情に働きかける特性などを基に，使用するすべての人の立場や目的，日常生活で使用する場面などのユニバーサルデザインの視点で捉えることを理解することができる。（知識及び技能）
・紙粘土の可塑性や絵の具の特性をいかし，「ユニバーサルデザインの７原則」を意識しながら表現方法を追求して，制作の順序などを総合的に考えながら，見通しをもって創造的に表すことができる。（知識及び技能）

（２）・使う目的や条件などを基に，「ユニバーサルデザインの７原則」や使用するすべての人の立場，場所，場面，機知やユーモアなどから主題を生み出し，他者への思いやりや優しさ，使いやすさや機能と美しさなどとの調和を総合的に考えて表現の構想を練ることができる。（思考力，判断力，表現力等）
・使いやすさや機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り，作品の創造的な工夫，生活や社会を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして，美意識を高め，見方や感じ方を深めることができる。（思考力，判断力，表現力等）

（３）・美術の創造活動の喜びを味わい主体的に使用するすべての人の立場や使う目的，場所，日常生活で使用する場面などを考えて表現したり，作品の創造的な工夫，生活や社会を美しく豊かにする美術の働きなどについて考えて鑑賞したりする学習活動に取り組むことができる。（学びに向かう力，人間性等）

３　題材の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	知　形や色彩が感情にもたらす効果や，材料の性質や質感が人間の感覚や感情に働きかける特性などを基に，使用するすべての人の立場や目的，日常生活で使用する場面などのユニバーサルデザインの視点で捉えることを理解している。 技　紙粘土の可塑性や絵の具の特性をいかし，「ユニバーサルデザインの７原則」を意識しながら表現方法を追求して，制作の順序などを総合的に考えながら，見通しをもって創造的に表している。	発　使う目的や条件などを基に，「ユニバーサルデザインの７原則」や使用するすべての人の立場，場所，場面，機知やユーモアなどから主題を生み出し，他者への思いやりや優しさ，使いやすさや機能と美しさなどとの調和を総合的に考えて表現の構想を練っている。 鑑　使いやすさや機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り，作品の創造的な工夫，生活や社会を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして，美意識を高め，見方や感じ方を深めている。	態表　美術の創造活動の喜びを味わい，主体的に使用するすべての人の立場や場所，日常生活で使用する場面などから主題を生み出し，使いやすさや機能と美しさなどとの調和を総合的に考えて構想を練り，表現方法を追求して見通しをもって表す表現の学習活動に取り組もうとしている。 態鑑　美術の創造活動の喜びを味わい，主体的に使いやすさや機能との洗練された美しさなどを感じ取り，作品の創造的な工夫，生活や社会を美しく豊かにする美術の働きなどについて考えるなどして見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

４　基盤

（１）題材観

本題材では，すべての人が使いやすいユニバーサルデザインの製品を開発することを通して，使用する目的や場面などから使いやすさや機能と美しさなどとの調和を考え，ユニバーサルデザインの視点から生活や社会を美しく豊かにする美術の働きについて考えることをねらいとする。

ユニバーサルデザインとは，年齢や性別，国籍，個人の能力など，人間がもつ様々な特性や違いに関わらず，すべての人が使いやすいようにデザインされた製品やサービスである。自動ドアや音が流れる横断歩道，ノンステップバス，シャンプーやリンスのボトル，文房具など，普段何気なく通っている場所や使用しているものにユニバーサルデザインの視点があり，生活や社会の中で身近に存在しているものである。

生徒たちは普段何気なく使用している製品やサービスに対して，誰のためにこの製品が開発されたのか，どのようなことを目指してデザインされたものなのかということなどを考える機会が少ない。本題材では，自分たちが普段生活している中で，改善されるとよいもの，あると便利なものなどを，「すべての人が使いやすい」というユニバーサルデザインの視点で製品を開発することで，普段使用しているものの見方を違う角度で捉え直したり，使用するすべての人に対する思いやりや優しさの心をもってデザインしたりすることの大切さやおもしろさを味わわせたい。また，形や色彩が感情にもたらす効果や材料の性質や質感が人間の感覚や感情に働きかける特性，多くの人が共通して感じる機能と美しさとの調和などを総合的に考えて構想する力をつけたり，製品のよさや創造的な工夫，生活や社会を美しく豊かにする美術の働きについて考えることで，見方や感じ方を深めたりすることが期待できる題材である。

（２）生徒観

本学級の生徒は８年生でピクトグラムの制作を通して，より多くの人に情報をわかりやすく伝えることができる伝達デザインの働きについて考える学習をしており，伝達の効果と美しさとの調和をいかして表現する力を身につけている。９年生では，自分の経験や心の中に広がる世界や空想などを基にして想像画を制作することを通して，デペイズマンによる表現方法や構図，絵の具の特性をいかして自分の表現方法を追求することができている。また，黒画用紙と色紙を使用した切り絵を制作する題材では，イメージを単純化や省略，強調したり，構成美の要素を活用したりして構図を工夫し，切り出した形や色彩の効果を考えながら表現する力を身につけることができている。このような活動を通して，他者に情報をわかりやすく伝えるために形や色彩を工夫して表現する力や自分の心の中に広がる世界を思い描き，表現方法や材料の組み合わせなどを考え，用具の特性をいかしながら創造的に表す力が備わっている。しかし一方で，生活や社会の中で使用されている製品や公共物に焦点を当て，これらが誰のためにつくられたものなのか，どのようなことを目指してデザインされたものなのかなどユニバーサルデザインの視点で，生活や社会を美しく豊かにする美術の働きについて考える学習を十分に行うことができていない。

生徒に対して事前に行ったアンケートでは，「ユニバーサルデザイン」という言葉を知っているという生徒は 89.7%であったが，そのうち「ユニバーサルデザイン」について説明できるのかについて，「ある程度できる」と回答した生徒は 43.5%,「できる」と回答した生徒は 5.6%と,「ユニバーサルデザイン」という言葉は知っているがそれについて自信をもって説明できる生徒は低水準だということがわかった。また，自分たちが普段の生活の中で使用している製品や日々の生活の中で目にしたり活用したりしているものが誰のためにつくられたものなのか、どのようなことを目指してデザインされたものなのかを考えたことが「どちらかといえばない」「ない」と回答した生徒は全体の 29.9%であった。以上のことから，普段何気なく使用している製品や目にしているものにはユニバーサルデザインの視点が備わっており，生活や社会と密接な関わりをもっているということに対する意識が向いていない生徒が少なからずいるということが考えられる。

そのため，中学校学習指導要領（美術編）に「使う目的や条件などを基に，使用する者の立場，社会との関わり，機知やユーモアなどから主題を生み出し，使いやすさや機能と美しさなどとの調和を総合的に考え，表現の構想を練ること。」とあるように，すべての人が使いやすい製品にするために，形や色彩が感情にもたらす効果や，材料の性質や質感が人間の感覚や感情に働きかける特性，多様な人々が共有できる機能や使いやすさと美しさとの調和などを考えて表現する力を身につけさせたい。また，ユニバーサルデザインの製品を開発することを通して，すべての人が使いやすいものにするために工夫を凝らすことのおもしろさを味わわせたり，生活や社会を美しく豊かにする美術の働きについて考えたりさせて，見方や感じ方を深めさせたい。

（３）指導観

本題材では，ユニバーサルデザインの製品と従来品を比較鑑賞することを通して，すべての人が使いやすくするためにどのような工夫がされているのかを考えさせることによって，普段の生活や社会の中で使われている製品や公共物に対して興味や関心をもたせる。その後，「ユニバーサルデザインの７原

則」を基に，形や色彩が感情にもたらす効果，材料の質感が人間の感覚や感情に働きかける特性，使いやすさや機能と美しさとの調和などを考えて表現の構想を練り，ユニバーサルデザインの製品を，粘土と絵の具を用いて制作をする。「ユニバーサルデザインの７原則」とは，①誰にでも公平に利用できること　②使う上で自由度が高いこと　③使い方が簡単ですぐわかること　④必要な情報がすぐに理解できること　⑤うっかりミスや危険につながらないデザインであること　⑥無理な姿勢をとることなく，少ない力でも楽に使用できること　⑦アクセスしやすいスペースと大きさを確保すること（出典：国立研究開発法人 建築研究所）である。そして，題材の最後にはプレゼンテーションソフトを用いて発表したり，実際に使用したりするなどの相互鑑賞を行い，お互いが開発した製品の造形的なよさや美しさを感じ取ったり，創造的な工夫などについて考えたりして，生活や社会を美しく豊かにするユニバーサルデザインの働きについての見方や感じ方を深めさせたい。

本時（第１次）では，ユニバーサルデザインの製品を鑑賞し，すべての人が使いやすくするために形や色彩，材料などにどのような工夫がされているのかを考える活動をすることで，使用するすべての人の立場や場所，使用する場面などのユニバーサルデザインの視点をもつことをねらいとする。まず，生徒が持ってきた製品や公共物の実物もしくは写真を鑑賞し，どのような特長や工夫があるのかを考えさせる。その後，教員が用意したユニバーサルデザインの製品と従来品を比較鑑賞し，その製品はどのような場面で使用するものなのか，どのようなことを目指して開発されたものなのか，それを踏まえた製品のよさや工夫などは何かを考え，話し合って発表する活動を行う。この活動を通して，すべての人が使いやすいものにするためには，使う目的や条件などから，多くの人が共通して感じる機能を重視したり，美しいデザインがされたりしていることや，ユニバーサルデザインの働きや意義について理解させたい。

第２次では，第１次で学習したユニバーサルデザインの製品のよさや工夫，働きや意義を基に，使用する場所や場面，目的などから主題を生み出し，使いやすさや機能と美しさとの調和を総合的に考え，ユニバーサルデザインの製品の内容を考えたりアイデアスケッチをしたりする。ここでは，「ユニバーサルデザインの７原則」を提示し，人々がどのようなものを望んでいるのか，どのような場面でどのように使用したいのかなどを具体的に考えさせることを大切にしたい。また，未来創造科で７年生の時に学習したＳＤＧｓでの視点や，９年生の時に「住みたいまち」について考えたことなども視野に入れながら，他者に対する思いやりや優しさなどを考えて発想や構想をさせる。構想の途中で相互鑑賞を行い，お互いの製品内容やアイデアスケッチをみて，よさや工夫について話し合ったり，改善点をアドバイスし合ったりさせる。この活動をすることで，自分のアイデアを客観的にみることができ，すべての人に使いやすい製品にするためのよりよい工夫を加えることにつながる。

第３次では，第２次で考えた企画書を基に，意図に応じて自分の表現方法を追求して作品の制作を行う。ここでは紙粘土と絵の具を用い，その可塑性をいかして持ちやすさを考えたり，優しさを感じるようなデザインにしたりするなど，形や色彩，質感の工夫を考えさせる。また，制作の途中で相互鑑賞を行い，お互いの作品のよさや創造的な工夫について話し合ったり批評し合ったりさせる。この活動を通して，表したいことをより一層明確にさせたり，「ユニバーサルデザインの７原則」を再度意識させたりしてさらに表現方法を追求し，よりよい作品づくりとなるようにしたい。

第４次では，まず，アイデアスケッチと制作した作品を基に，プレゼンテーションソフトを用いて発表の資料作成をする。ここでは，具体的な作品の説明を他者に伝えることを想定して，どのような場面でどのように使用するのか，どのようなことを目指して開発したのかなど，アイデアスケッチの作成時に考えたことをわかりやすく伝える工夫をする。その後，そのプレゼンテーション資料と作品を基に相互鑑賞を行う。作品についてよさや工夫を説明したり，実際に使用してみたりする活動をしながら，すべての人が使いやすいようにするために形や色彩，質感をいかして表現方法を追求したことを振り返らせるとともに，生活や社会を美しく豊かにするユニバーサルデザインの働きや意義について学んだことを実感させたい。

５　指導と評価計画（全１０時間）

●学習のねらい・学習活動	知・技	思・判・表	態度	評価方法・留意点等
１．鑑賞（１時間） ●比較鑑賞を通して，形や色彩が感情にもたらす効果や，材料の性質や質感が人間の感覚や感情に働きかける特性などを基に，使用する全ての人の立場や目的，日常生活で使用する場面などのユニバーサルデザインの視点で捉えることを理解する。 ・生徒が持ってきたユニバーサルデザインの製品や公共物を鑑賞し，気づいたことや感じたことなどを考え，発表する。 ・ユニバーサルデザインの製品と従来品を比較鑑賞し，よさや工夫などを話し合い，発表する。 ・ユニバーサルデザインの働きや意義について話し合い，発表する。		鑑 ↓ 鑑		鑑 ユニバーサルデザインの製品のよさや創造的な工夫，その働きや意義について考えているのかを見取る。見方や感じ方が深まらない生徒に対して，形や色彩が感情にもたらす効果や材料の性質や質感が人間の感覚や感情に働きかける特性など〔共通事項〕の視点を示して作品を鑑賞させるなどの手立てを講じる。【発言の内容，ワークシート】 **鑑 生徒が，使いやすさや機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り，製品のよさや創造的な工夫，ユニバーサルデザインの働きや意義などについて考え，見方や感じ方を深められたかどうかを評価する。【活動の様子，ワークシート，振り返り】**
２．発想や構想（２時間） ●主題を生み出す。 ・「ユニバーサルデザインの７原則」を参考に，使用する目的，場所，場面，機知やユーモアなどから主題を生み出す。		発 ↓	態表 ↓	発 使う目的や場所，場面などのイメージや，機知やユーモアなどから主題を生み出せているかどうかを見取る。主題が生み出せていない生徒に対して，「ユニバーサルデザインの７原則」を再度確認させたり，ユニバーサルデザインの製品を実際に使用させたりして，よさや工夫などのイメージを深めさせる手立てを講じる。【ワークシート，アイデアスケッチ】 態表 主題を生み出そうとする態度を見取り，主体的に活動できていない生徒に対して，鑑賞の学習での内容について振り返らせたり，chrome book でユニバーサルデザインの製品を検索させたりして，すべての人が使いやすくするためにどのような工夫がされているのかを情報収集させる。【ワークシート，アイデアスケッチ，活動の様子】

●構想を練る。 ・創出した主題を基に，形や色彩が感情にもたらす効果や，材料の性質や質感が人間の感覚や感情に働きかける特性，他者への思いやりや優しさ，使いやすさや機能と美しさとの調和などを考えて発想や構想を練る。				発 主題を基に形や色彩が感情にもたらす効果や，材料の性質や質感が人間の感覚や感情に働きかける特性，他者への思いやりや優しさ，使いやすさや機能と美しさとの調和などを総合的に考えて表現の構想を練っているかどうかを見取る。構想が練れていない生徒に対して，再度主題を確認させたり，使う目的や場所，場面と形や色彩，質感などの関連性を考えさせたりする。【ワークシート，アイデアスケッチ】 態表 主体的に構想を練ろうとしているのかを見取り，できていない生徒に対して，鑑賞の学習でのユニバーサルデザインの製品におけるよさや工夫などについて，形や色彩，材料の性質や質感などの視点から再度考えさせる。【ワークシート，アイデアスケッチ，活動の様子】
●よりよいアイデアを考える。 ・製品内容やアイデアスケッチを相互鑑賞し，アドバイスし合うことで，客観的な視点を取り入れてより使いやすい製品となるよう，さらに形や色彩，質感などを工夫する。				発 お互いのアイデアスケッチを基に製品内容やそのよさや工夫などを伝え合い，より使いやすい製品にするためにはどうすればよいのかを考え直し，形や色彩を工夫しているのかを見取る。できていない生徒に対して，形や色彩の効果，材料の性質や質感などの〔共通事項〕や，使いやすさや機能と美しさとの調和などについて考えるなどの視点を示して修正させる手立てを講じる。【ワークシート，アイデアスケッチ】 **発 生徒が，使用する目的，場所，場面などのイメージから主題を生み出し，形や色彩などが感情にもたらす効果や，材料の性質や質感が人間の感覚や感情に働きかける特性，他者への思いやりや優しさ，使いやすさや機能と美しさとの調和などを総合的に考え，表現の構想を練っているのかを暫定的に評価し，授業外で，主題や構想の工夫などを記述**

		発	態表	したワークシート等を完成作品と併せて再度見取り，必要に応じて修正する。また，アイデアスケッチの相互鑑賞を通して，より使いやすくするためにはどうすればよいのかを考え直し，形や色彩を工夫しているのかを見取り評価する。【ワークシート，アイデアスケッチ】 態表 生徒が主体的に知識を活用しながら，発想や構想の学習活動に取り組もうとする態度を評価する。【ワークシート，アイデアスケッチ，活動の様子】
３．制作（４時間） ●アイデアスケッチで発想や構想したことを基に，紙粘土や絵の具の特性をいかし，意図に応じて表現方法を工夫して，制作の順序などを考えながら見通しをもって創造的に表す。 ・アイデアスケッチを基に，形や色彩が感情にもたらす効果や材料の性質や質感が人間の感覚や感情に働きかける特性などをいかしながら紙粘土を使って作品を制作する。 ・紙粘土や絵の具の特性をいかして，創意工夫して制作する。 ・「ユニバーサルデザインの７原則」を意識し，使う目的や場所，場面などを考えて制作する。	技	発	態表	技 形や色彩が感情にもたらす効果や材料の性質や質感が人間の感覚や感情に働きかける特性，使いやすさや機能と美しさとの調和などを考え，紙粘土の可塑性や絵の具の特性をいかし，表現方法を追求して，制作の順序などを総合的に考えながら表しているかどうかを見取る。できていない生徒には，再度製品内容やアイデアスケッチを確認させたり，他の生徒の作品を紹介したりして表現の工夫について考えさせたりするなどの指導を行う。【制作途中の作品】 発 この段階で構想がまとまっていない生徒に対して，使う目的や場所，場面などについて，もう一度考えさせたり，形や色彩の効果や質感の特性などについて他の生徒の作品を鑑賞しながら考えさせたりするなどの指導を行う。【制作途中の作品】

●より使いやすい製品となるように修正する。 ・制作の途中で相互鑑賞を行い，自分の製品の工夫を説明したり，他者の作品のよさや美しさを感じ取ったりしてアドバイスし合い，より使いやすいデザインを考えることで，表したいことをより一層明確にしながら作品を完成させる。	知・技		態表	発 お互いの作品のよさや工夫について伝え合い，より使いやすくするためにはどうすればよいのか考え直して，形や色彩，質感などを工夫しているのかを見取る。できていない生徒に対して，形や色彩の効果や材料の性質や質感における特性などの〔共通事項〕や使いやすさや機能と美しさとの調和などについて考えるなどの視点を示して修正させる手立てを講じる。【ワークシート】 態表 主体的に表現方法を追求しようとしたり，見通しをもって表そうとしたりしている態度を見取る。できていない生徒に対して，形や色彩による印象の違いや，材料の質感による持った時の感覚の違いなどに気付かせながら，表現の工夫について意欲を高めるような指導を行う。【制作途中の作品，活動の様子】 知・技 作品から，意図に応じて表現方法を工夫しているかなどを見取るとともに，形や色彩の効果や材料の性質や質感における特性，使う目的や場所，場面などの全体のイメージで捉えることを理解していることを併せて見取り，知と技を知・技として一体的に評価する。【作品，アイデアスケッチ，ワークシート】 態表 生徒が主体的に制作に取り組み，形や色彩の効果や材料の性質や質感における特性，使う目的や場所，場面などの全体のイメージで捉えることを理解しようとし，見通しをもって表現方法を工夫して表そうとしている態度を評価する。【作品，活動の様子】

４．まとめ，鑑賞（２時間） ●生徒作品を相互鑑賞したり，実際に使用したりしてユニバーサルデザインについての見方や感じ方を深める。 ・アイデアスケッチと制作した製品を基に，chrome book を使用してプレゼンテーションの資料を作成する。 ・プレゼンテーションの資料と製品を基に相互鑑賞したり，実際に使用したりして，すべての人に使いやすくするために形や色彩，質感などをどのように工夫したのか発表し合ったり，使いやすさや機能と美しさなどとの調和を感じ取ったりするなどして，ユニバーサルデザインの見方や感じ方を深める。 ●生活や社会を豊かにするユニバーサルデザインの働きについて学んだことを実感し，普段の生活に目を向ける。 ・ユニバーサルデザインの製品を開発したことを通して，すべての人が使いやすくするために，形や色彩，質感などを工夫して制作することのおもしろさやユニバーサルデザインの働きや意義について学んだことを振り返る。	知	鑑	態鑑	知　形や色彩が感情にもたらす効果や材料の性質や質感が人間の感覚や感情に働きかける特性，使う目的や場所，場面，使いやすさや機能と美しさとの調和などと作品がどうつながっているのかを理解しながらプレゼンテーション資料を作成しているかどうかを見取り，できていない生徒に対して，主題やアイデアスケッチを再度確認させるなどの指導を行う。【プレゼンテーション資料】 知　形や色彩などの効果や質感の特性，使う目的や場所，場面，使いやすさなどのユニバーサルデザインの視点で捉えることを理解しているかどうかを見取る。できていない生徒に対して，ユニバーサルデザインの製品を例に出して示すなどの指導を行う。【ワークシート，発言の内容】 鑑　自分の作品のよさや美しさを説明したり，他の生徒の作品の造形的な工夫について考えたりしているかどうかを見取る。できていない生徒に対して，作品の主題や構想を振り返らせたり，形や色彩が感情にもたらす効果や，材料の性質や質感が人間の感覚や感情に働きかける特性などの〔共通事項〕の視点で鑑賞させたりするなどの指導を行う。【ワークシート，発言の内容】

	知	鑑	態鑑	態鑑　作品の造形的なよさや美しさを感じ取ったり，他の生徒の作品のよさや工夫について主体的に考えたりしているかどうかを見取る。できていない生徒に対して，作品の主題や実際に使用してみた時に感じたことを関連づけさせたり，形や色彩の効果や材料の性質や質感の特性，他者への思いやりや優しさ，使いやすさや機能と美しさとの調和などの視点で考えさせたりするなどの指導を行う。【ワークシート，発言の内容，活動の様子】 知　生徒が形や色彩が感情にもたらす効果や材料の性質や質感が人間の感覚や感情に働きかける特性，使う目的や場所，場面，使いやすさや機能と美しさとの調和などと作品がどうつながっているのか理解してプレゼンテーション資料を作成したかどうかを評価する。【プレゼンテーション資料】 鑑　生徒が自分の作品のよさや工夫を説明したり，他の生徒の作品の造形的な工夫について考え，文章にまとめてたりしているかどうかを評価する。【ワークシート】 態鑑　生徒が主体的に作品を鑑賞し，形や色彩の効果や材料の性質や質感の特性，使用する目的や場所，場面，使いやすさや機能と美しさとの調和などの全体のイメージで捉えることを理解しようとし，造形的なよさや美しさを感じ取ろうとしたり，他の生徒の作品のよさや創造的な工夫などについて考えようとしたりしているかどうかを評価する。【ワークシート，活動の様子】
＜授業外：題材が終了後＞	知・技			知・技　完成作品や表現及び鑑賞のワークシートなどから知・技の評価を再確認し，必要に応じて修正する。【完成作品，アイデアスケッチ，ワークシート】 鑑　作品の造形的なよさや美しさを感じ取り，創造的な工夫などについて考え，見方や感じ方が深められ

		鑑 発		ているかをワークシートで見取り評価する。【ワークシート】 発 発想や構想について，主題や発想・構想の工夫，アイデアスケッチやその修正案などを記述したワークシート等を完成作品と併せて再度見取り，必要に応じて修正する。【完成作品，アイデアスケッチ，ワークシート】

６　本時の学習（１／１０時間）

（１）目標

・ユニバーサルデザインの製品と従来品を比較鑑賞することを通して，使いやすさや機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り，製品のよさや創造的な工夫，ユニバーサルデザインの働きや意義などについて考えるなどして，見方や感じ方を深めることができる。

（思考力，判断力，表現力等）

（２）展開

主な学習場面と子どもの取組	めざす姿と取組を支える手立て
〔授業開始前〕 chrome book にログインし，Google Classroom に入る。 １．本時の学習の流れを確認する。（１分）	
２．自分が持ってきたユニバーサルデザインの視点でつくられた製品や公共物など（実物もしくは写真）を鑑賞し，特長や工夫について考え，ペアで伝え合った後，全体で発表する（10 分）。 ・ワークシートに特長や工夫について個人で記述する。 ・記述した内容について全体で発表する。 ＜予想される生徒の反応＞ ・安全に配慮されている ・握りやすい形になっている ・危険がないように考えられてデザインされている	・身近なものや公共物が，使う人の立場を考えてどのように工夫されているのか，どんな特長や工夫があるのかを考えることによって，すべての人が使いやすいというユニバーサルデザインの視点を意識できるようにする。また，全体で発表することで，身近にある様々な製品や公共物が，すべての人のことを考えてつくられたものであることに気づくことができるようにする。
３．教員が紹介したペットボトルのユニバーサルデザインと，自分が持ってきたもの（実物もしくは写真）の共通点を見つけ，発表する。（５分） ＜予想される生徒の反応＞ ・握りやすい形という点で同じ ・誰にでも使いやすいというところが似ている ・軽い力というところが共通している	・教師が，ペットボトルという身近なユニバーサルデザインを紹介し，生徒が持ってきたもの（実物もしくは写真）との共通点を見つけさせることで，異なる製品でも，ユニバーサルデザインという視点では同じであるということに気づかせる。 ・この後の比較鑑賞でユニバーサルデザインの視点が常に意識できるように，「ユニバーサルデザインの７原則」を示し，どのようなことを条件にユニバーサルデザインの製品が開発されているのかを理解させる。
３．本時の学習目標を確認する（１分）	
製品のよさや工夫から，ユニバーサルデザインの働きや意義を考えよう	

４．ユニバーサルデザインの製品と従来品を比較鑑賞し，使用する場所や場面，どのようなことを目指して開発されたのか，よさや工夫を，Google スプレッドシートもしくはホワイトボードを使用して班で考え，全体で発表する（18 分）。 〔鑑賞する製品〕 １・２班：はさみ（種類別） ３・４班：ホッチキス ５班：箸・スプーン ６班：箸・フォーク ７・８班：カッター ＜予想される生徒の反応＞ ①どのような場所や場面で使用するものか ・ものを切る時に使用する ・食べ物を食べる時に使用する ・紙を束ねたい時に使用する ②どのようなことを目指して開発されたものか ・誰にでも安心・安全に使用できるようにつくられたもの ・弱い力でも使用できるように設計されている ・小さい子どもや高齢者など，誰にでも持ちやすいようにデザインされている ③①と②を踏まえた製品のよさや工夫は何か ・形もシンプルで軽量であり，力が弱い人でも使いやすい ・けがをする危険性が少ないので，子どもから高齢者まで幅広く使用することができる ・優しさを感じるような色合いになっている	・製品のよさや工夫をより多く見つけられるように，ユニバーサルデザインの製品に加えて従来品も用意しておき，実際に使用することができるようにする。 ・多角的な鑑賞ができるように，「どのような場所や場面で使用するものか」「どのようなことを目指して開発されたものか」「製品のよさや工夫は何か」という視点を与える。 ・ユニバーサルデザインの製品と従来品を実際に使用させ，どのような決定的な違いがあるのかを考えるように促す。 ・鑑賞活動が深まらない班に対して，他の班の Google スプレッドシートやホワイトボードを見て，どのような見方や考え方をしているのかを確認し，参考するように促す。 ・ユニバーサルデザインの製品は，すべての人が使いやすいように形や色彩，質感などに様々な工夫がされていることに気付くことができるよう，比較鑑賞でわかったことを全体で発表する時間を設ける。 ・形や機能，色や素材などさまざまな見方や考え方が出るように，「形としてどこが工夫されているのか」「どんな素材が使われていて，従来品と比べてどうか」などと問いかける。
５．ユニバーサルデザインの製品と従来品との比較鑑賞からわかったことを通して，ユニバーサルデザインの働きや意義について考え，全体で発表する（10 分）。 ・ワークシートに自分の考えを記述する。 ・ユニバーサルデザインの働きや意義について考えたことを全体で発表する。 ＜予想される生徒の反応＞ ・年齢や性別などを問わず，誰にでも使いやすくデザインされたものである ・すべての人の生活を快適にするものである ・安全性に十分に配慮され，誰もが安心して使えるように設計されたものである。 ・障がいのあるなしに関わらず，すべての人が不自由を感じることなく生活できるようにするため ・みんなが等しく豊かな生活を送れるようにするため。	・「なぜそのような製品が開発されたのか」「何のために考えられたのか」などと問いかけ，ユニバーサルデザインの働きや意義について様々な意見が出るようにする。 ・自分の班や他の班の Google スプレッドシートもしくはホワイトボードを見て，ユニバーサルデザインの製品にどのようなよさや工夫があったのかを確認させ，考えが深まるようにする。 ・「ユニバーサルデザインの製品と従来品の違いは何か」と問いかけ，使いやすさや安全面という観点などから考えられるようにする。 【評価の観点（思考・判断・表現）】 使いやすさや機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り，製品のよさや創造的な工夫，ユニバーサルデザインの働きや意義などについて考えるなどして，見方や感じ方を深めている。（評価方法　活動の様子・ワークシート・振り返り）

６．本時の学習を振り返り，全体で発表する（５分)。 ＜予想される生徒の反応＞ ・ユニバーサルデザインはすべての人が使いやすいように形やデザインが工夫されているものであり，普段何気なく見ているものや使っているものの中にも，ユニバーサルデザインのものが多くあるということがわかった。 ・身の回りのものをユニバーサルデザインの視点で考えたことがなかったので，新たな気付きがたくさんあった。ユニバーサルデザインの製品や公共物を考える時には，使う人に対する思いやりや優しさが必要であるように感じた。	・ユニバーサルデザインの製品と従来品の比較鑑賞を通して発見した新たな気付きや疑問，ユニバーサルデザインの働きや意義について感じたことや考えたことなどを書くように指示する。 ・今後の見通しとして，ユニバーサルデザインの製品を開発することを伝え，日常生活の中で改善されるとよいもの，あると便利なものは何かを考えるようにしておくことを伝える。

（３）評価

評価の観点	十分満足できると判断される状況	概ね満足できると判断される状況	支援を要する状況への手立て
思考・判断・表現	概ね満足できると判断される状況に加えて,「同じ刃物でも,安全性という点でカバーをつけるのか,ボタンを押すことによって刃が出てくるなどの違いがある」「すべての人に使いやすいようにという視点は,使う人に対する思いやりや優しさにつながっている」など，他者との対話を通して自分の意見をさらに広げるなど,見方や感じ方を深めている。	ユニバーサルデザインの製品のよさや創造的な工夫,ユニバーサルデザインの働きや意義などについて「誰でも安全に安心して使えるようにデザインされている」「形がシンプルで軽量であり,力の弱い人でも持ちやすく楽に使用することができる」「シリコン素材で柔らかくて使いやすいし,優しさを感じる色合いである」など形や機能,色や素材などさまざまな視点で考え,見方や感じ方を深めている。 （十分満足できる状況にするための手立て） 他者の意見と自分の意見と比較したり,そこからさらにどう感じるのか考えたりさせて,見方や感じ方を深めさせる。	他者の意見も参考にしながら,ユニバーサルデザインの製品と従来品との決定的な違いを発見させ,そこからわかるユニバーサルデザインの製品のよさや工夫,働きや意義について具体的に考えさせる。 また，形や機能，色や素材などさまざまな視点で鑑賞することができるよう,握った感覚や色の組み合わせなどについて考えるように促す。